

## 審議内容

(報告第8号について公園計画・21世紀の森担当より説明)

(質疑等の要旨)

- 委員 背景に「交流人口の増加や地域の活性化」と「周辺地区内における多世代が集う憩いの場、遊びの場」と記載しているが、交流人口を増やす公園と地域住民のための公園は作り方が違ってくるのではないか。
- 事務局 確かに交流人口の増加を目指す部分と地域住民の憩いの場は、相反する部分があるかもしれないが、面積が1.5haあるので、性質による区域分けは可能だと考えている。小田南公園に阪神タイガースファーム施設を誘致することで、小田南公園で失われた機能を大物公園に芝生広場のような憩いの機能や遊具を配置する遊びの機能を整備することで、補完するという部分がある。一方で、蒸気機関車のような歴史的財産の活用や、周辺の公園や観光資源の周遊性を高める整備をすることで交流人口の増加というものを図っていきたいと考えている。
- 委員 この地域では、人口減少と少子高齢化が進んでいることが課題となっているため、少子高齢化が改善し、子どもが増えていくような整備をする必要がある。子どもが増えないのであれば、観光づくりのための公園の整備として資金投入した方がいいのではないかと考える。
- 委員 尼崎市が公開している阪神大物駅周辺地区における公園緑地再整備基本方針のイメージでは小田南公園に賑わいの核を持たせ、周辺緑地とネットワークを築き、ウォークアブルな空間を作ることとしている。最近、特定の機能に制限するのではなく、「毎週違うイベントをする」、「広場ではキッチンカーが乗り入れできる」、「子どもがスケボーできる」、「大人はウォーキングしている」など、いろいろな人の多様なニーズに答えることで、いつも使えるような公園整備が求められている。尼崎市もこの難しい課題にチャレンジしていただきたい。

以上